7 指導過程

段階(時間)	指導内容	指導上の留意点
既習事項の復習と課題の確認(7)	1．前時の学習内容について，具体例をもとに解き方を復習させる。 (1)　$3x=5x+4$ ・移項の考え ・同類項の簡約 ・等式の性質の「4」または「3」 2．本時の学習課題を確認させる。 (1)　具体例を発表させる。 ・$3x-2=5x+4$ (2)　前問との違いを指摘させる。 (3)本時の学習課題を確認させる。 ・$ax+b=cx+d$ の形の方程式の解き方	○本時の学習に直接かかわる内容であるので，しっかりととらえさせる。特に式変形の過程について，等式の性質や移項の考えを用いて理由づけをさせることにより，確かなものにさせる。 ○前時の「自己評価票」の結果を参考にして，つまずきのあった生徒を中心に指名する。 ○「学習のめあて表」などをもとにしっかりと，とらえさせる。 ○前問との違いを明確にさせることにより，本時の課題をしっかりととらえさせたい。 ○下位の生徒の抵抗も配慮し，「○x＋△＝▽x＋□の形の方程式の解き方」と板書する。
解決の見通し・課題の解決(15)	3．$ax+b=cx+d$ の解き方を理解させる。 (1)　具体例をもとに，解決の見通しを立てさせる。 (2)　$3x-2=5x+4$ の解き方をまとめる。 4．問題を解かせ，自己のつまずきや到達度を確認させる。 (1)　学習プリントの問題を解かせる。 (2)　解き方を示す。 (3)　自己のつまずきや到達度を確認させる。	○前問との比較から，-2，$5x$ をそれぞれ右辺，左辺に移項すればよいことに気づかせる。 ○生徒の発表をもとに，解き方の手順を板書によってまとめていく。 ○式変形の過程を，等式の性質や移項の考えを用いて説明させ，より確かなものにさせる。 ○(1)，(2)を通して，"わかる"，"できそうだ"という意欲を喚起したい。 ○ＡＮで進みぐあいを確認する。 ○解き方は，ＯＨＰで提示する。 ○どこでつまずいたのか，また，その原因はどこにあるのかをしっかりとらえるようにする。はっきりしない生徒には個別指導する。 ○ＡＮで全体のできぐあいをとらえるとともに，それぞれの問いについて，どの生徒ができなかったのかを把握しておく。
強化(15)	5．自己のつまずきや到達度に応じて，コース別学習をさせる。 (1)　形成的評価問題の結果をもとに，各自のコースを選択させる。 ○つまずきのない生徒 ・Ｃコース (深化・発展的な問題) ○つまずきのある生徒 ・つまずきの解消 ・コース選択 Ｂコース(５問) Ａコース(３問) (2)　コース別学習をさせる。 (3)　評　価	○原則として，全問正解者はＣコースに進ませる。 ○つまずきのある生徒にはつまずき解消のための補充問題を準備しておき，各自のつまずきに応じて学習させる。 ○補充問題を終えたら，教師のもとに持ってこさせ，つまずきが解消できたかどうか確認する。その際，個に応じた働きかけも十分配慮する。 ○つまずきの解決に要した時間なども考え，Ａコースにするか，Ｂコースにするかを考えさせる。また，机間巡視をしながらコース選択に無理がないかなどを見て，必要ある生徒には助言指導をする。
確かめ(10)	6．小テストを行い，本時のめあてが達成できたかどうか確認させる。 (1)　小テスト(３問) (2)　自己評価させる。	○時間は５分程度とする。 ○解答はＯＨＰで提示する。 ○ＡＮで，できぐあいを確認する。 ○テストの結果や反省などを「自己評価票」に記入させる。特に反省については，つまずきや到達度について具体的に書くよう指示する。
まとめと次時課題(3)	7．本時のまとめをし，次時の学習課題を把握させる。 (1)　小テスト問題を例にして，まとめをする。 ○解き方(解く手順) (2)　次時の課題を提示する。 ○かっこのついた形の方程式の解き方	○つまずきが多かった問題を中心にして，解法の手順を説明する。 ○「学習のめあて表」より具体例を示し，かっこをはずせばできそうだという考えをもたせ，次時への学習意欲を喚起したい。